

北九州シオン教会 2023年12月3日(日) 主日礼拝
李 泳善(イ・ヨンソ) 師 使徒行伝 1:8 「教会は世の希望です」

- 1”テオピロよ。私は前の書で、イエスが行い始め、教え始められたすべてのことについて書き、
- 2 お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。
- 3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。
- 4 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。
- 5 ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」
- 6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」
- 7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。
- 8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」”

2000年のイースターの日曜日に大阪オンマリ教会が開拓されました。
そして2001年、私はその教会の牧師として送られました。
その当時、聖徒たちは50人ほどいました。
私としては初めて教会の責任者になったのです。
私は本当に教会についてよく知りませんでした。
だから日曜日の夕方になれば私の足りなさで、ため息をしていました。

ところがその当時、ハ・ヨンジョ牧師先生のセミナーがありました。
それは教会とは何か、その本質についての言葉でした。
それは北朝鮮の教会についての言葉でした。
北朝鮮には今でも見えない教会が存在します。
73年前、朝鮮戦争とともに北朝鮮はキリスト教を途方もなく迫害しました。
それで、当時のほとんどの教会は閉鎖しました。
牧師とクリスチャンは南に逃げてきました。
しかし、その時、教会を離れることができなかった多くの人々が北朝鮮に残りました。
北朝鮮政府は73年間、徹底的に教会、教人、信仰を禁止して迫害し、死刑宣告をしました。
しかし、今でもその当時のクリスチャン、その子ども、その孫が隠れて信仰生活をしています。

ところが彼らにとっては教会… という言葉に浮かぶものは一つもありません。
彼らには教会の建物はありません。
聖書の本も賛美歌もありません。
牧師もいません。

互いに集まって礼拝することもできません。
しかし、そこには見えない教会があります。

それでは、教会の本質、すなわち教会が教会になるために絶対になくなくてはならないのは建物でも、聖書の本でもなく、賛美歌でもなく、牧師でもなく、組織でもなく、礼拝の集まりでもありません。

それでは、教会を教会にする本質は何でしょうか。

この教会の本質についての言葉でした。

私はその時期に教会の本質について深く考えることができました。

そしてその後、大阪で牧会することができました。

今日私たちは教会とは何ですか？ という質問を聖書で見つけなければなりません。

今日、私たちはどの時代、どの地域においても教会とは何でしょうか？ という質問に答えることができるように、聖書の言葉を一緒に見たいです。

1-2 節

教会の本質の第一はイエスの十字架です。

この使徒行伝を書いた人は誰ですか。

これは、ルカ 1:3 を読んで見ることができます。

ルカ 1:3

”私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。”

そして使徒行伝第 1 章 1-2 節を見てください。

1”テオピロよ。私は前の書で、イエスが行い始め、教え始められたすべてのことについて書き、

2 お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。

誰が見ても、異邦人の医者だったルカが使徒行伝も書いたのです。

使徒行伝 2 章では、聖霊降臨とともに教会が始まります。

しかし、聖霊が来る前に必ず確認しなければならないのはイエス様の十字架です。

だからルカが使徒行伝を書いて、最初に強調したのは、

イエス様の御業、教え、使徒たちにイエス様が救い主であることを教えてくださったことです…。

これをルカが福音書に詳しく書いたのです。

それでは

教会の本質は何ですか？

教会の本質はイエス様です。

この言葉は教会がイエスをよく知っているという意味でも、
教会が発展するにはイエス様に似ていなければいけないという意味でも、
そういう意味ではなく…

どんな教会でも… その教会はイエス様という言葉です。
私たちはこの事実を信じなければなりません。

もしそうなら、これも言うことができます。
このシオン教会はイエス様です… という言葉です。
シオン教会はイエス様のようになるべきです… という言葉ではありません。
すでにこの教会は創立した瞬間からイエス様です。
そしてこれからもこの教会はイエス様です。
もっと頑張るのではなく…
完全にイエス様であることを信じなさいというのです。

こうして例を挙げましょう。
私はここに存在します。
私の名前はイ・ヨンソンです。
私はイ・ヨンソンです。
私が努力してイ・ヨンソンになるのではありません。
私はすでにイ・ヨンソンです。
私は韓国人で、梅光の宗教主任であり、牧師であり、夫であり、父です。
私は私のアイデンティティを認め、学校で聖書をよく教え、
人々を精神的によく導き、妻を愛し、子供をよく育てます。
それから私は私に与えられた私の人生を本当に生きていくことです。

皆さん、シオン教会も同じです。
このコミュニティはイエスです。
十字架で死んで罪人を救われたイエス様が頭であり、
皆さんはそれぞれ体の各部分です。
私たちはイエスの共同体になろうとするのではなく、
もう既にイエス様のコミュニティです。

私たちに任せられたことは、イエス様の残された仕事、すなわち十字架の救いを成し遂げることです。
十字架はユダヤ人にはつまずきであり、ギリシャ人には愚かなものです。
しかし、十字架はそれを信じる人にとっては救い、能力です。
私たちは、世の前で愚かなものより、神様の前で愚かなことを恐れなければなりません。

教会はイエスであり、イエスは十字架です。
だから教会は十字架です。
私は現在梅光幼稚園長をしています。

週に一度、幼稚園の先生と聖書の勉強をします。
ところが、去る金曜日の朝に聖書を読んで祈りをした時…
あなたの痛みを先生達と分かち合いなさい…という思いを神様がくださったのです。

私はありもしないことで非難を受けたことがありました。
主はその時、主の御言葉を伝えることだけに集中するように言われました。
ローマ 8:1にこのような言葉があります。
”こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。”

私はこの言葉を幼稚園の先生と分かち合いました。
聖書を教えるよりも私の心を分けました。
そして十字架の血が私たちに対する罪の定めを防いでくれたのです。
私は間接的ですが、十字架を証することができました。
これからも十字架を毎日表すことが出来ればよいと思います。

大阪で有名なたこ焼きには必ずタコが一つずつ入っています。
それと同じように、私たちの毎日の生活の中に十字架が一度入っていれば本当に良いよう
です。
今日も私が負けるべき十字架を負うこと、
そして、そのような人々が集まる場所が教会だと思えます。

3 節

3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確
かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

教会の第二の本質は復活です。
使徒行伝 2 章に初代教会が建てられる前、ルカは確かに復活を言います。
使徒行伝の弟子たちのメッセージも短く明確でした。
それはイエス様が復活されたということです。

使徒行伝 2 章で聖霊が降臨し、人々がその姿を見て驚きます。
その時ペテロが有名な説教をします。
そしてその説教の結論がまさにイエス様が復活されました…。ということです。

私はクリスチャンの家庭で生まれ、幼い頃から教会に行きました。
大学生時代には教会に行っていない時期もありました。
ところで軍隊に行ってきた、再び教会に行き始めました。
電車がレールの上を走るように、私の人生は信仰というレールの上を走らなければなら
ない..
このように決心し、日曜学校の教師をしました。

ところが学生たちに聖書を教える時…
他の聖書のところをよく教えました。
しかし復活を教える時はなんとなく自信がありませんでした。
なぜでしょうか？
深く考えた期間がありました。
そしてその理由を見つけました。

その理由は、自分自身が確実に復活を信じていないからです。
幼い頃から聖書を見て、復活を知りました。
しかし、私の口で復活を確かに信じて告白することはできませんでした。
ただ熱いジャガイモのように直面していません。

その後、日曜学校の教師をしてその問題に直面するようになったのです。
私はその時期に神学校に通っていました。
実際、神学校に行く前に、神学を勉強すれば、信仰がより良くなると思いました。
ところで神学を勉強し、信仰がより弱くなりました。

それから私が勉強した本が一冊ありました。
その本のタイトルは faith for understanding でした。
この言葉の意味を詳しく考えてみました。
理解のための信仰です。

しかし、じっと考えれば、この世界はその逆です。
つまり understanding for faith です。
言い換えれば、世界は理解してから信じます。
証拠を見てから信じます。
説明を聞いてから信じます。

ところが世界で重要なのはその逆です。
信じてこそわかるのです。
たとえば、私が下関駅までの道を知らず、誰かに尋ねます。
その人が説明をしてくれます。
私はまずその人の言葉を信じます。
そしてそのまま行くと下関駅に行けます。
その時その道を知ることですね。
信じなければわからないのです。

結婚もそうです。
夫と妻がお互いに健康診断書を持ってくるようにして、
毎年自分が知らない債務があるかないかを確認し、
毎日毎日浮気していなかをチェックして
お互いを知って幸せな夫婦になるわけではありません。

結婚する日、夫は妻に愛と信じることを宣言します。
妻は夫を愛することを約束します。
そしてその信仰でお互いを信頼し、一生生きながらお互いを知っていくのです。

神様との関係もそうです。
私は神学を勉強して、神を知ることはありません。
私が信仰によって神様信じる時、
その信仰の目で、私たちは神様を見ることができなのです。

復活も同じです。
復活は信仰、選択、決断です。
それから、復活が信じられるのです。
復活が信じられれば、聖書がすべて信じられるのです。

救いとはこの世があげられないことです。
その救いをくださる神様は、世界の原理を超越する方です。
無から有を作った方は、死人を復活させる方です。
世界の中にあるものは、世界中の人に頼むことができます。
誰かが私にパンをくれる事は出来ます。
しかし、永遠の命は、世界の外にいる救いは、世界を超越した方に求めなければなりません。
その神様のひとり子イエス様は、私たちに永遠の命を見せるために復活された方です。

教会にとってこの復活が本質です。
ですから、私たちは絶望の中で希望を持っています。
死の中に命を持つものであり、
暗闇の中で光を見つけたもので、
十字架の中で復活を見つけることです

ハレルヤ！イエスは死から復活しました。
世の人々はこの復活を信じなくても、私たちは復活を信じます。
私たちの願いは復活です。

4-8 節

4”彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

5 ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。

8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エル

サレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

教会の第三の本質は聖霊です。なぜなら、教会自体は聖霊降臨によって誕生したからです。

4節を見れば、弟子たちにとってエルサレムはすぐに去りたいところです。
政治家や宗教家や既得権者がイエスを十字架につけた場所です。
イエス様が復活されましたが、彼らは今でも強い力を持って社会を支配しています。

しかし、イエス様はそのエルサレムを絶対に去らないように言われました。
弟子たちはその言葉を政治的に解釈しました。
ユダヤ人なら誰でも考えることがあります。それはユダヤ民族の復興です。
ダビデの時代のように再びローマで独立し、神様の国として復活するのです。

しかし、イエス様にとって神様の国はダビデの国を回復させるものではありませんでした。
それは本当の霊的な神の国です。
その霊的な神の国に必ず必要なのは聖霊様の同行です。
聖霊は十字架と復活のある場所に臨みます。
なぜなら聖霊様はイエス様だからです。
それで、彼らは十字架の場所、復活の場所を離れてはいけませんでした。

私たちは時には大きすぎる壁を感じます。
この世界は大きすぎて、教会は小さすぎるようです。
世界は人が溢れ、教会は人が少ない。
世界の人々にとって教会は小さく見えます。
最近のクリスマスツリーを見ると、デパートのツリーが大きくて光ります。

そのたびに思い出される聖書の詩があります。
ゼカリヤ 4:6

”すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は仰せられる。

じっと考えれば、私たちが主の働きをするわけではありません。
私たちは主の主観的に行われる技に用いられるだけです。
主の働きは主がなされます。
私たちは波を作れません。
ただ私たちは波に乗るだけです。

しばらく前に、福岡のある牧師と話す機会がありました。
10年前に梅光大学の学生がイエス様を受け入れたということでした。
私は10年前に梅光大学を通して福音を聞いた学生が10年後にイエス様を信じたという話を聞いてとても感激しました。